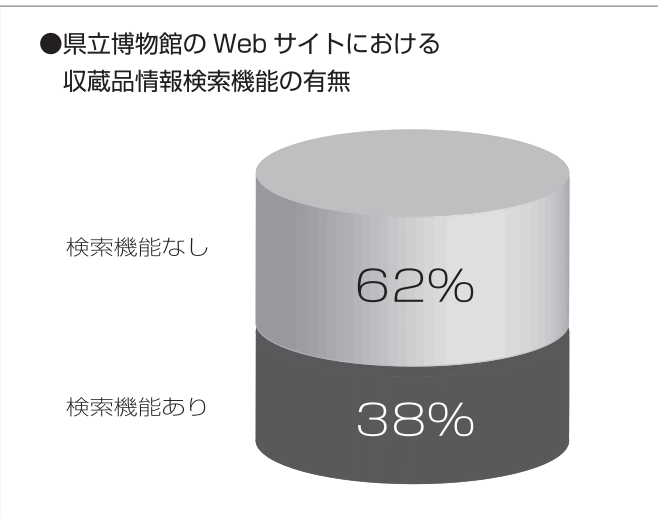




# 県立規模の博物館の 収蔵品情報公開状況は？



※『デジタルアーカイブ白書 2005』をもとに弊社にて算出

## 約4割の県立館が Web を活用した情報公開を実施

2006年、『デジタルアーカイブ白書 2005』をベースに県立館について調べたところ、インターネットの Web サイトに資料検索機能を設置している館は38%でした。爆発的な普及とはいきませんが、ミュージアムの置かれた現状を考えれば、ますます健闘していると言ってもよいのではないのでしょうか。

年を追うごとに市民の生活への浸透度を深めるインターネット環境だけに、今後、掲載情報の充実かを求める声が高まることは必至。コストや労力負担の面で課題もありますが、少しずつでも準備を進めて行きたいものです。

県民のみならず、日本画ファンにとっても待望、福井の至宝がついにネットで閲覧可能に！

## 福井県立美術館

県立美術館による収蔵品のネット公開の最新事例は、岩佐又兵衛、狩野芳崖、菱田春草などの作品が人気を集める福井県立美術館。これまで、比較的シンプルなWebサイトを運営してきた同館が、収蔵品情報の検索機能の実装作業をほぼ完了されました。

Webサイト本体のトーン&マナーに合わせて、簡素なインターフェイスが特徴。大きなコストをかけなくても充実した情報公開は可能という良い事例になりそうです。同館サイト上での公開は、今月中旬から。ぜひアクセスをお試しください。

いよいよ公開！



<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>

### ●編集後記

これまで社内報として制作してきた「みゅーじあむ・かわら版」と、不定期刊行でお届けしてきた「I.B.MUSEUM News」を統合！今回、第1号をお届けいたします「MAPPS Press」は、今後、月1回の発行を目指しております。どこまで続くかわかりませんが（汗）、チカラの限り博物館の皆様に関連情報を発信して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

MAPPSは、「Museum Archive Platform Projects」を意図しております。これは、弊社がこの後に計画しております新プロジェクトの総称でもあります。内容につきましては、この夏から秋にかけて発表させていただく予定でありますので、こちらにもどうぞ注目ください。

(担当：U/I)



足立区立郷土博物館

## コストや労力をかけなくても、充実した情報発信は十分に可能！

「コンプライアンス時代」を背景に、保有情報の透明性を確保することが社会の大きな関心事となっている昨今。博物館は、地域住民共有の財産を預かる施設であるだけに、他の行政機関と同様に「情報公開」が求められる傾向が強まっているようです。

博物館が管理する情報とは、すなわち、収蔵品情報のこと。どんな作品や資料が保管・公開されているのか、学芸活動の成果は、市民はそれを生活にどう役立てることができるのか。こうした情報を広く発信することは、地域の中での存在意義を示す絶好の機会ともなり得ます。



しかし、公開作業にはコストと労力がかかるため、現実にはなかなか推進が困難なもの。そこで、独自の視点による情報公開で評価を集める館の最新事例をご紹介します。

今後、博物館の必須業務として避けては通れなくなるであろう話題だけに、ぜひご参考に。

◎次ページで最新事例を紹介

もう避けては通れない？ 地域貢献活動の基本事項。

**博物館の情報公開**

社会全体の「アンテナ」が高感度化する中で、ますます高まり続ける情報公開ニーズ。地域への貢献が求められる博物館にとっても、館内情報の発信はこれまで以上に重要性が増しています。そこで、「MAPPS」第1号では、各館の取り組みについての最新事例をご紹介します。高い評価を得た2つの館の話題を中心にお届けします。

### Contents

- コンパクトで効果的な来館者端末 — 足立区立郷土博物館
- 東京と神戸の情報を統合して公開 — 賀川豊彦記念・松沢資料館
- 県立美術館の情報公開の現状は — 福井県立美術館



# 情報公開システムは、市民との交流のチャンス。 コストより、誠意とアイデアで勝負する博物館の試み。

館リニューアルに先駆けて設置した来館者向けシステムが利用者、特に子供たちの間で話題に！

## 足立区立郷土博物館



### ◎一石二鳥の合理性よりも、子供たちの使い勝手を優先して人気を獲得

開館から 20 数年、地域の顔のひとつとして地道な努力を続けてこられた郷土博物館。今年 3 月、「江戸東京の東郊」をテーマに全館がリニューアルされましたが、情報公開の一環として、それに先駆ける形で来館者用端末の開発が行われました。

博物館の資料公開と言えば、静的な内容に落ち着きがち。だからこそ、資料管理システムの分類だけでは括れない情報まで、アクティブに楽しめる形で提供したい。操作はマウスのみで、タッチパネルもなし。幅広い年代層がストレスを感じることなく使えるものを…。プロジェクトの開始に当たって、館側は明確なコンテンツ像を描いておられました。

当初はこうしたご希望をお持ちの館は多いのですが、それを貫く形で完成に至るケースはあまり多くありません。立ち上がる予算の壁、そして関わる人々の間で生じる微妙なイメージ

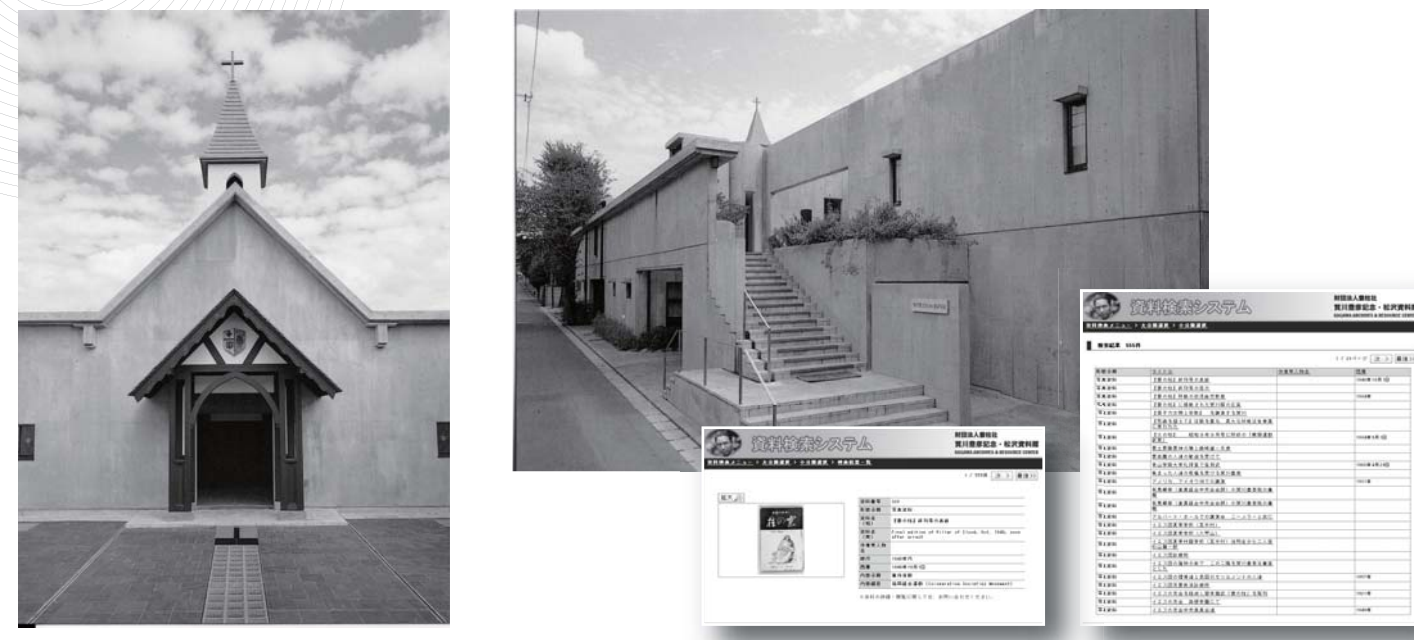
の食い違い。本件では、特に Web サイトとの連携性について議論が交わされました。

合理性を高めるためにコンテンツを館のホームページにも移植したいというご希望がありました。画面サイズやレイアウトのルール、コーディング方法などが異なるため、情報を共有するには別途の作業が必要となりました。これを強行すると、端末コンテンツ側にも調整が必要となり、当初の計画に変更が生じます。そこで、館は「一石二鳥」を追うことを諦め、予定通り来館者の利用感を優先する方針を固められました。

その結果、万人に好感をお持ちいただけるシンプルで機能的なコンテンツが完成。特に「クイズ」コンテンツが好評で、端末のまわりには子供たちの姿が絶えないとのこと。目的を見失わない館の開発姿勢が、成功の原動力となりました。

全国に点在する関連施設による、統合型 DB の開発。ネット上の研究者が求める「一次資料」の公開を円滑に実現。

## 賀川豊彦記念・松沢資料館



### ◎関連施設が協力して立ち上げた、研究者向け一次資料閲覧サービス

大正・昭和初期に活躍したキリスト教の伝道師で、社会運動家としても世界的な知名度を持つ故・賀川豊彦氏を顕彰する資料館。東京の上北沢をはじめ、本所、神戸、徳島などに関連施設がありますが、今年「献身 100 周年」を迎えるにあたっての記念事業の一環として、各施設が所蔵する関係資料をインターネット上で公開するプロジェクトが計画されました。

ちょうど松沢資料館で管理システムの更新時期が近づいていたため、これを機に各館のデータを統合するというアイデアが生まれます。まずは比較的規模が大きい神戸の施設との統合データベース開発が決定し、資料の整備が行われました。

昨年从今年にかけて推進されている記念事業では、ラジオのシリーズ番組の制作をはじめ、多彩なプロジェクトが同時進行しました。ご多忙を極める中での情報公開システムの立ち

上げは両館にとってもご負担となったはずですが、明確なスケジュールイメージと強い意欲に支えられ、完遂されました。

こうした複数館を横断するアーカイブは、昨今のインターネットユーザーが求める「一次資料の公開」の枠組みそのもの。研究者向けの閲覧サービスとして資料検索コーナーが設置された同館のホームページは、専門サイトとしての存在意義をさらに深めていくことでしょう。

無理に全館参加を押し通すのではなく、柔軟な姿勢で臨まれた、今回のプロジェクト。これまで以上に体系的な情報公開を実現した横断検索機能は、「献身 100 周年」事業でラインナップされたイベント群の中でも、特に高い評価を得ているとか。効率と効果を両立する複数館合同データベースは、今後の「博物館の情報公開」を考える上でも参考になりそうです。